

編集後記

2017年度は、本研究所が創価教育の歴史と思想を次々と発信できた1年となった。まず、『評伝 牧口常三郎』が2017年6月6日に第三文明社より発刊された。この本は、本研究所が長年にわたり調査・収集した資料を提供し、最新の研究成果を盛り込んで編纂されたものである。今後の牧口常三郎研究の基礎として、広く読まれることを期待したい。次に、創立者の創価大学における講演・メッセージ等を収録した『創立者の語らい』がデジタル化され、2017年9月より順次公開されている（学内者限定）。創立50周年を目前に控えた今、学生及び教職員が改めて創価大学設立の理念と人間教育の真髄を学ぶ契機としてまいりたい。

『創価教育』も前号で10号の節目を迎え、今号から新たな出発をする。第11号も、以下に紹介するように、創価教育の歴史的・思想的研究や現代社会の諸課題への提言など、多岐にわたるテーマを取り上げ、充実した内容となっている。

冒頭には、ノーラニット・セータブット氏（タイ・タマサート大学評議会議長）による卒業式での祝辞、李天任氏（台湾・中国文化大学学長）による入学式での祝辞、そして創大祭・白鳥祭記念「創価栄光の集い」における李寿成氏（韓国・元首相）の記念講演の3本を収録することができた。いずれも、創価大学生に対する満腔の期待が込められた講演である。

研究ノートとして、蝶名林亮所員による『『創価教育学体系』における価値に関する一階理論の検討:準備的考察』を掲載した。牧口常三郎の幸福に関する見解について、倫理学の立場から考察した成果である。

次に、2017年度に行われた創価教育に関する講演の中から5本を収録した。吉田悦志氏（明治大学副学長）の「作家・子母澤寛誕生の風土―幕府軍敗残兵3人と厚田村―」は、2017年11月23日に本研究所が開催した講演会の記録である。戸田城聖の親友であった子母澤寛について、彼らが育った厚田村の地理的・時代的・社会的・人的環境を軸に論及している。坂本辰朗教授による「大学史の中の創価大学」も、2017年12月11日開催の本研究所講演会の記録であり、教育思想史における創価教育の意義と、日本の高等教育史における創価大学の位置を論じている。さらに、2017年度夏季大学講座における講義のうち、創価教育に関連する内容を取り上げた3本を収録した。「創価教育学会史序説（2）―牧口常三郎と犬養毅―」（神立孝一副学長）、「核廃絶と人間の安全保障―「原水爆禁止宣言」60年にあたって―」（中山雅司所員）、「創価教育と家族・地域・世界」（杉山由紀男教授）である。これらの講演録は、文学、教育学、歴史学、国際政治学、社会学という諸学問の知見に立脚して、創価教育及びその背景を論じた貴重な成果といえる。

中国における「池田思想」研究の動向についての高橋強教授の報告は、本号で14回目を迎えた。2017年度に中国の各地で開催された池田思想研究の学術シンポジウム等のほか、新たに設立された池田大作研究機関、池田研究の成果等を紹介している。

付録として、このたび作成した「創大名所マップ」について案内している。これは、

学内に存在する様々な「像」と「石碑」を1枚の地図にまとめたもので、本研究所のホームページからダウンロードできる。あわせて、地図上でクリックすると、それぞれの名所の由来やエピソードを読むことができるページも設置した。ぜひともご活用いただきたい。

おわりに、今回の紀要に原稿をお寄せ下さった諸先生方、そして紀伊國屋書店をはじめ御協力・御尽力いただいた方々に、この場を借りて篤く御礼を申し上げたい。

2018年3月 (T.S.)